

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

9

September | 2026

高橋FPの社長が知りたいお金の話

相続の手続き支援、3つの新制度

海外経営者列伝

リサ・スー

9月の主要経済カレンダー

ECB理事会、米FOMC、金融政策決定会合ほか

2分で分かる注目レポート

「World Investment Report 2026」

マネークリップ

新興国投資について考える

世界で愛されるUKIYO-E案内

鳥居清長



写真:アフロ

いま、考えたい

資源・エネルギー関連の運用手法

地政学的な緊張が続く世界情勢の中、資源やエネルギーへの関心が高まっている。
今月は、資源関連の運用について少し考えてみたい。

資源・エネルギーを巡る環境が大きく動いている。2月末のイラン攻撃以降、ペルシャ湾では停戦と交戦が繰り返されている。中東情勢の緊迫化を受け、各国は改めてエネルギー安全保障の重要性を意識することとなった。世界的な緊張の高まりを受け、市場の関心は、石油や天然ガスなどだけでなく、レアアースや銅、リチウムなどの鉱物資源に大きく広がっている。電力網の整備、再生可能エネルギーの導入、蓄電池やEV（電気自動車）の普及、さらにはデータセンターの建設ブームなどから、これらの資源の確保は経済活動にとって重要なものとなっているのだ。IEA

も2026年の報告書で、重要鉱物の供給集中や輸出規制がエネルギー安全保障上の課題になっていると指摘している（図表1）。

需要が増えるだけでは十分ではない？

このような中、素直に投資先を考えると最初に挙がるのは需要の拡大が期待される資源・エネルギー関連の株になるだろう。石油ならエクソンモービルやシェブロン、銅ならばフリーポート・マクモラン、産業用金属全般であれば、リオ・ティントやBHPなどの企業の名前が浮かぶ。



ただし、需要が急拡大した結果、競争環境が大きく変化するケースもある。例えば、リチウム。EV普及への期待が高まり、世界的に大規模な増産が行われた。特に中国企業が供給力を大きく高めた結果、需要の増加以上に供給量が増え、リチウム価格は大きく下落した。リチウムブームの中で、世界最大級のリチウム生産企業だったアルベマールは厳しい事業環境に直面した。資源投資では「何が必要とされるか」だけでなく、「誰が利益を獲得できるか」を見極めることが重要である。

シンプルに商品価格の値動きを活用する手もあるが、こちらは意外と難しい。多くの商品は先物市場で取引されており、個人投資家にはハードルが高い。商品価格と連動するETFは、先物やデリバティブを利用する銘柄が多く、長期的には連動をめざす指標とETFとの連動性が低くなる場合がある(図表2)。ETFについてはファンドの仕組みをよく確認したいところだ。

資源国通貨の活用や政策に期待する手も

その他には、どのような方法が考えられるだろうか。一つは資源国通貨を使った間接的な投資である。例えば豪州は代表的な資源輸出国であり、豪ドルは世界の資源需要の影響を受けやすい通貨として昔から知られている(図表3)。加えて、このところは銅やリチウム、レアアースの供給国として注目を集める。昔ながらの運用手法ではあるが、改めて見直す価値はあるだろう。

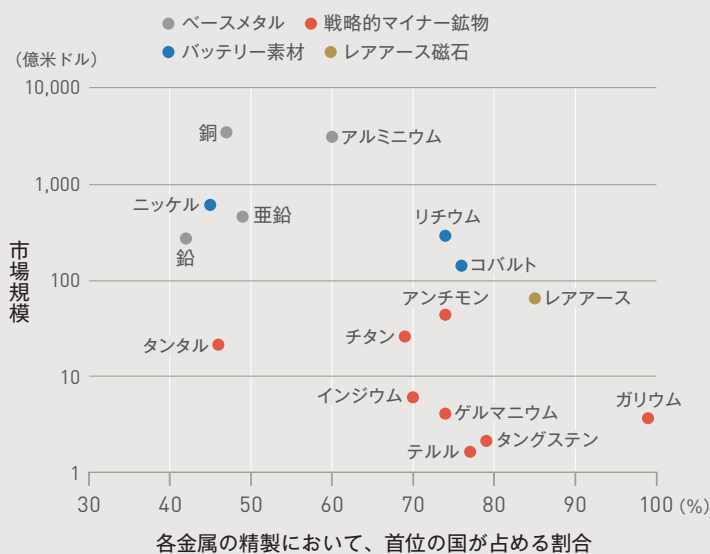
また、現在の資源問題は、単なる需給だけでは語れない。前述の通り、レアアースの精製やリチウム電池の材料などは供給が大きく偏っているため、多くの国が代替供給網の構築を進めており、安全保障の観点からも重要な問題となっているのだ。各国の資源戦略から恩恵を受ける企業への投資を考えるのも一つの方法だろう。例えば米国のMPマテリアルズは、レアアース供給網の再構築という政策テーマと結び付いた企業の一つ。日本も南鳥島のレアアース泥の開発を進めているが、各国にとって重要鉱物の確保は「死活問題」として認識されつつある。「政策に売りなし」との格言の通り、各国の戦略から恩恵を受ける銘柄を探す価値はありそうだ。

*

資源・エネルギー投資は分かりやすいテーマである一方、投資先選びは案外難しい。資源・エネルギーやその安全保障をテーマに据えた投資信託を活用するのも一つの方法かもしれない。世界の大きな変化を資産の成長につなげることができるのは、投資の大きな愉しみの一つ。まずは、自分の興味分野を信頼できるアドバイザーに伝えてみてはどうだろうか。きっと新しいアイデアが得られるはずだ。

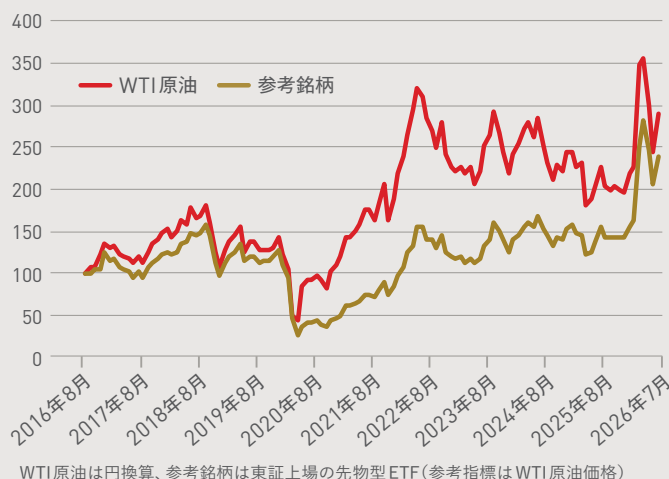
M

■ 図表1 各資源の市場規模と精製シェア(2025年)



(出所)国際エネルギー機関「Global Critical Minerals Outlook 2026」をもとに当社作成

■ 図表2 WTI原油価格と先物型ETFの価格推移
(月次、2026年7月まで、開始時点=100)



WTI原油は円換算、参考銘柄は東証上場の先物型ETF(参考指標はWTI原油価格)

(出所)Bloombergのデータをもとに当社作成

■ 図表3 商品価格と豪ドルの推移
(月次、2026年7月まで)



CRB指数は複数の資源価格を合成して作成されるコモディティ価格の代表的な指数、米ドル建て

(出所)Bloombergのデータをもとに当社作成